



# 災害時緊急こども支援チーム「J-CST」の創設 ～平時も災害時も「子どもの権利」が保障される世界へ～

---

特定非営利活動法人Chance For All

## 私たちについて

---



# 生まれ育った家庭や環境に関わらず、だれもが幸せに生きていける社会の実現

こどもたちの居場所や遊び場づくりを行ってきました。足立区墨田区で計8校舎を展開する「学童保育CFAKids」、こどもたちが自らの意思で訪れることのできる居場所「駄菓子屋irodori」、なにをしてもいいなにをしなくてもいい自由な空間「遊び大学」など、理念にそって様々な事業を行っています。

設立から10年が経ち、年間3,400人のボランティアと共に10万人以上のこどもたちに遊び場と居場所を届けています。



## 災害時緊急こども支援チーム (J-CST) が解決したい課題

---

- ・ 災害時のこどもへのケア不足
- ・ 平時のこどもの遊び不足
- ・ 被災時に必要な助け合い・  
共助の不足



## ミッション・ビジョン

---

**Mission** 平時も災害時も子どもの権利が保障される社会の実現

**Vision** こども主体で自由に共にあそぶ環境をつくる

**Action** 平時からプレイカーの全国展開によって、子どものあそび場を生み出す。

災害発生時、被災地に全国からプレイカーが駆けつけ、  
子どもをケアする体制をつくる。

# 平時の取り組み

「プレイカーの全国展開によって、こどもたちの遊び場を生み出す」

## 全国のこども支援団体との協力

「協働パートナー」の募集を  
2025年度から開始。



## 全国各地であそび場展開

- ・車の上に乗る、車体にお絵描きする。  
など、普段なら怒られちゃうような  
ワクワクする体験ができる
- ・あそび場に集まったこどもたち同士、こども  
とおとの交流も発生する



## 日常があそびで溢れた社会の実現

- ・日本の街中であそび場展開し、こどもたちが  
夢中で外遊びができる。その経験が、こども  
たちの自己肯定感や幸福感を高め、  
こどもが自死を選択しない世界へ



自己肯定感の回復、トラウマケア、共助の再構築

→福祉・防災・まちづくり分野における実践の融合=「社会デザインの革新」



つむぎやさん（かーびー）のプレイカー  
公園でのあそび場の実施

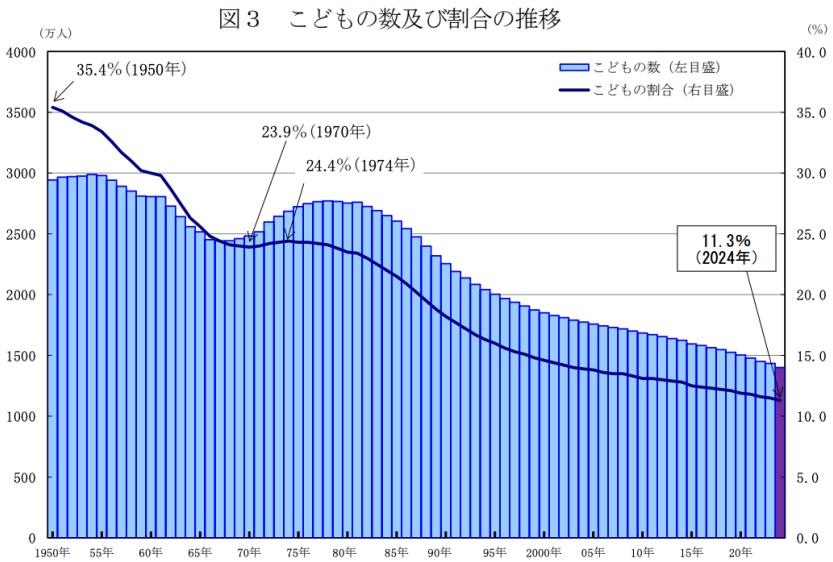
写真提供：地域団体MAP

## 防災×子育てイベントへの参加



主催団体：U.grandma Japan (うわじまグランマ)

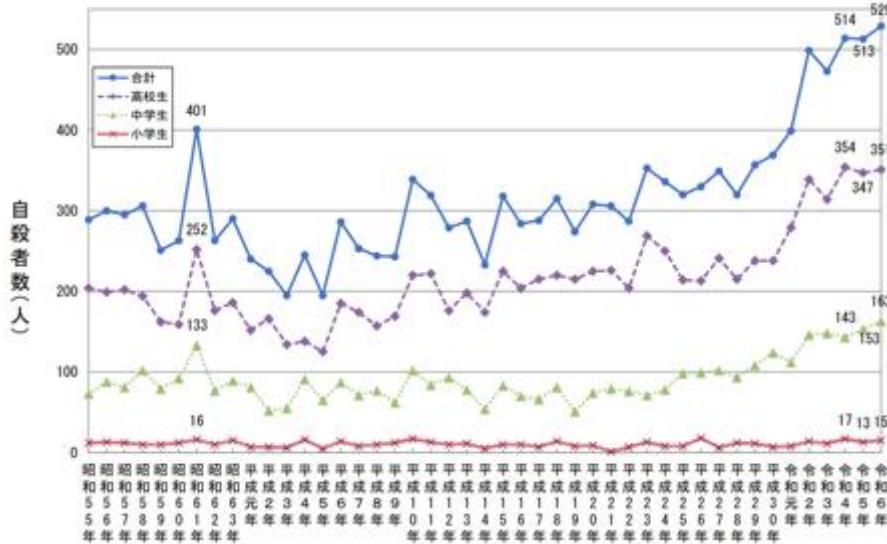
## 子どもの数及び割合の推移



資料：「国勢調査」及び「人口推計」

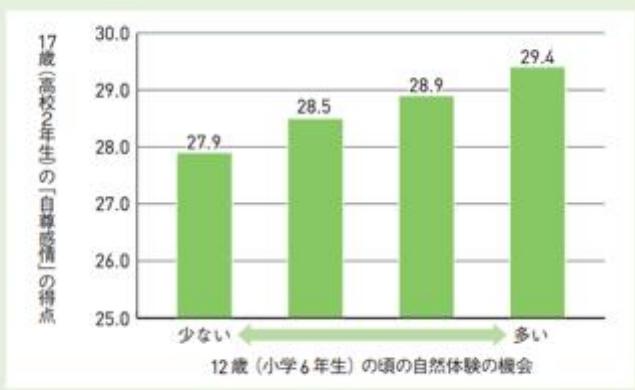
注) 2023年及び2024年は4月1日現在、その他は10月1日現在

## 小中高生別自殺者数の年次推移



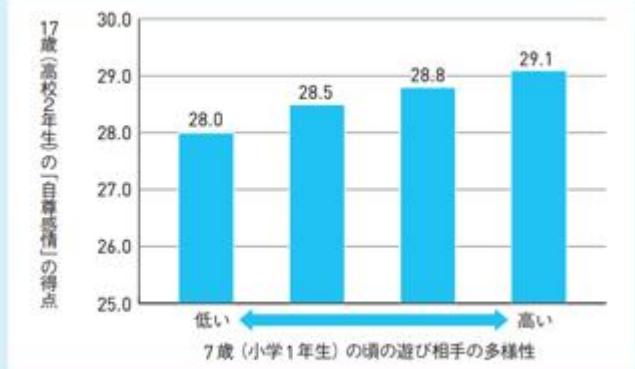
## 「体験活動」の影響

体験を多くすることによる影響を自然体験（キャンプ、登山、川遊び、ウインタースポーツなど）、社会体験（農業体験、職業体験、ボランティア）、文化的体験（動植物園・博物館・美術館見学、音楽・演劇鑑賞、スポーツ観戦など）に分けて分析したところ、自然体験では主に自尊感情や外向性、社会体験では小・中・高校生の時期の向学校的な意識（勉強・授業が楽しい）、文化的体験は全ての意識（裏面参照）に良い影響が見られることが分かりました。

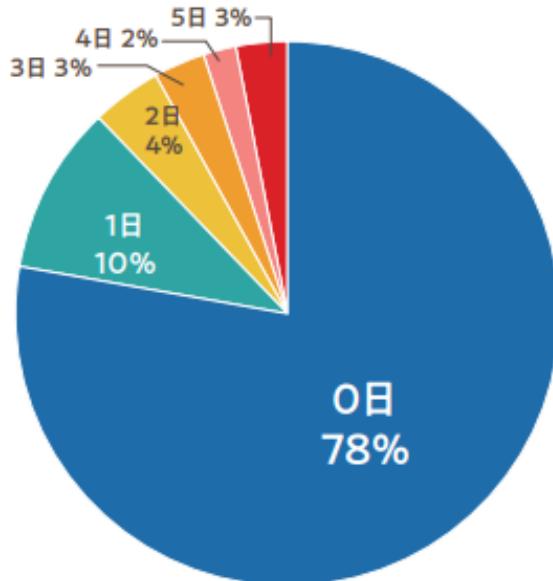


## 「遊び」の影響

遊び相手などによる影響を分析したところ、異年齢の子どもや家族以外の大人とよく遊ぶなど多様な相手と遊ぶ機会が多いと、自尊感情や外向性などに良い影響が見られることが分かりました。



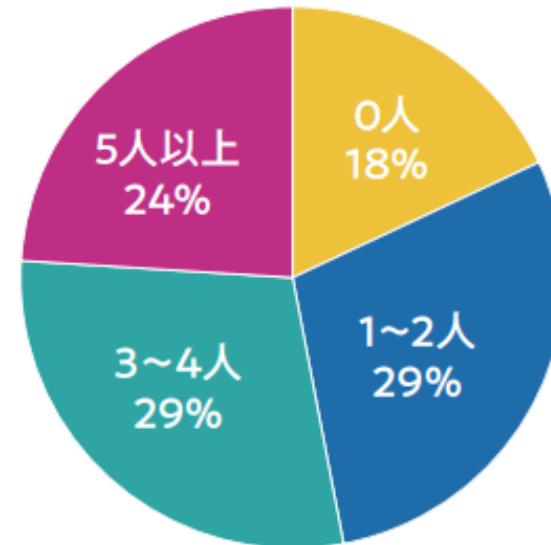
## 平日の子どもの外遊びの日数



日本学術会議子どもの成育環境分科会  
 「我が国の子どもの成育環境の改善にむけて  
 -成育空間の課題と提言 2020-」p.25 (2020.9.25)

小学生が平日の放課後に外遊びをする日数を調査。都市部では約8割の子どもが平日の放課後に全く遊ばない結果となった。

## 放課後の友達の人数



2016 ~ 2018 年に千葉市、宮城県気仙沼市、福島県石川町、  
 群馬県片品村、みなかみ町で2,986人が回答  
 (千葉大学木下勇研究室)

約2割の子どもが、放課後に一緒に遊ぶ友達がないと回答している。

# 災害時の取り組み

## 被災地に全国からプレイカーが駆けつけ、こどもをケアする体制をつくる

### 平時のつながりを活かした 実施体制構築

現地ニーズ調査から、寄付募集、人材の確保等、一元化した指揮系統の元、実行する

被災地のこどもや保護者、教育関係者



### 被災地へプレイカーが集合

支援物資の運搬、専門性を持ったボランティア人材の派遣、あそび場の展開などの支援を継続的に実施する。



### フェーズに合わせ、長期的な支援実施

平時から連携を重ねてきた団体の力が集結するからこそ、適切にリソースを配分し、災害直後から復興期まで継続的な支援が可能になる



共助によるレジリエントな地域社会づくりによる、持続可能で実効性ある社会基盤としての役割を果たす

# 災害時における子どもの遊びに関する学際的研究より

---



「日本では、震災後に避難所滞在中、仮設住宅滞在中に屋外遊びの許可が最も制限された例がある」と指摘。危機状況下（災害、紛争、避難など）での子どもの遊びアクセス（Permissions, Spaces, Supports, Time）に関する国際比較レビュー。

IPA-APC “Access to Play for Children in Situations of Crisis” より  
IPA:子どもの遊ぶ権利のための国際協会

「日本での地震後、子どもたちは多くの障壁に直面した：許可がない、トラウマ、遊び場の喪失、仮設住宅に遊び場が計画されていない、友人の喪失、自由時間の減少など。しかし子どもたちは、“隠れた場所 (secret places)”を探して遊び、しばしば自然要素を含む空間を選ぶ。」

「危機の状況下の子どもたちは、遊びを通じてストレスに対処し、レジリエンス（回復力）を育む適応的能力を発揮する。」

Children's coping, adaptation and resilience through play in situations of crisis より

# 能登の活動



活動期間

2024年2月27日～現在



プレイカー活動開始日

2024年7月20日

あそび場実施

36箇所

あそび場回数

246回

子どもの参加人数

のべ5209人

ボランティア参加者数

のべ166人

子どもたちの権利に配慮して顔が映っていない写真を使用しています

2025年10月15日現在

# 2025年9月牧之原市台風15号・竜巻災害復興支援



SBS (静岡放送) より



しづおか子育て防災ネットワーク、みらい子育てネット牧之原との協働によりあそび場を展開  
子どもや保護者だけでなく、地域の方や高齢者も一緒に過ごした

# 被災地での活動を通じて聞こえてきた声

---

「大声で叫んでいい？」

「仮設は狭くてプラレールすら出せない」

「小学生向けの支援はたくさん来るし学童もあるが、中学生の放課後の居場所はない。」

「中学生には人権はないのかよ」

「プレイカーの遊び場で、地震後初めてこどもたちが地震ごっこ、津波ごっこをやり始めた。遊びがもたらす解放によって心のケアがなされた瞬間だった。思いっきりあそぶことが何よりこどもの心のケアになると思います」（小学校校長先生）

「災害でたくさん友達を失って悲しかったし苦しかったけど、震災がきっかけで出会えた人から、未来を生きるきっかけをもらえた」

「震災で家族全員亡くして、ひとりぼっちになってしまい、外に出られなかった子が、プレイカーがきてくれたことで外で遊べた」

## 推進体制



### 全国のこども・若者支援団体

主管として企画運営・マネジメント・資金調達  
能登や都内での自主事業型プレイヤー



移動式あそび場の知見提供  
移動式あそび人材育成



中間支援の知見提供  
マネジメント支援



中間支援・こども食堂ネットワークの知見提供



企画提案  
事例共有

日本放課後学会

調査・研究

自治体・企業

連携

資金提供  
伴走支援

全国のプレイヤーを  
持つ団体・自治体

プレイヤーを  
各地で展開

全国のパートナー  
団体

支援物資の運搬、専門性を  
持ったボランティア人材の派遣、  
あそび場の展開などの支援を  
継続的に実施する。



全国にある子育て  
防災ネットワーク

普及啓発・  
連携協力

普及啓発・  
連携協力

全国のこども・若者支援団体

普及啓発・  
連携協力

資金提供  
伴走支援

# 活動を通じて見えてきた可能性



## こどもを取り巻く社会課題をポジティブに解決できる

「プレイカー」「プレイワーカー」が、「遊び」に必要な3間（仲間、時間、空間）を創り出す  
こどもを取り巻く社会課題に「支援」ではない活動でリーチし、解決に導くことができる

## 「あそぶこと」を職業にした専門家によるコミュニティづくり

「プレイワーカー」「プレイリーダー」と呼ばれる「あそぶこと」を職業にした新しい仕事を創出  
こどもを中心としたコミュニティ作りだけでなく、こどもに関わる大人、そして地域コミュニティ  
を醸成することができる

## 世代を超えた「居場所づくり」

こどもが集う場所に集まる子育て中の大人たち。遊びの場が展開される場所に集う高齢者  
「プレイカー」の行く先がこどもだけない多世代を繋ぐ「居場所」になる

## 地域コミュニティの再生

プレイカーを用いた被災地支援が、地域の子育て支援団体の力を呼び起こし、地元団体を  
中心とした地域コミュニティが再形成されていく

# スケールアウトの可能性とその先に見える未来

## 活動主体を中心としたカスタマイズ可能なモデル

都市部・農村部など地理的条件や地域資源に応じた柔軟な展開が可能

地域NPO、自治体、企業など活動主体を選ばない活動モデル（時に遊び、時に地域コミュニティ、時に虐待やひきこもりへのアウトリーチな活動・・・）

## 都市計画・防災・福祉・教育など異なる分野を横断的に接続可能

公園（プレイパーク）プレイカー、避難場所×プレイカー、子育て支援×プレイカー

学童・放課後の居場所×プレイカー

## 自治体・企業とのコラボレーションによる無限な可能性

地域貢献、ブランド価値向上、SDGs推進などに資する協働テーマ

製造、物流、建設、保険など、プレイカーの機能開発・運用・保守に関与可能な幅広い産業領域

## 全国的なネットワーク構築により、全国規模での備えが可能

災害支援インフラとしてTKB48にC（Child Care）を！Cを担えるJ-CST

## メッセージ

---

**全国47都道府県全てにプレイカーを配置し  
全国の2000台が  
子どものあそぶ権利を保障し  
平時も災害時も  
「子どもの権利」  
が保障される未来を創る**

**THANK YOU!**

---

**ご清聴ありがとうございました!**

**お問合せ先 特定非営利活動法人Chance For All**

 [info@chance-for-all.org](mailto:info@chance-for-all.org)